

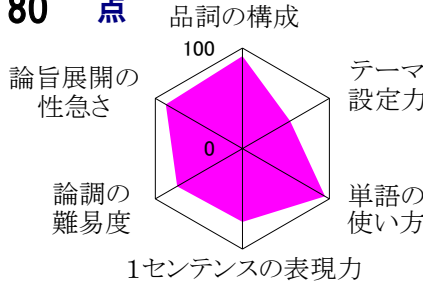
ID//

タイトル// F1観戦

文章表現力測定総合点

80 点

- 品詞の構成 92 点
- テーマ設定力 55 点
- 単語の使い方 95 点
- 1センテンスの表現力 73 点
- 論調の難易度 75 点
- 論旨展開の性急さ 88 点



基本測定項目は16種類あります。理想的な適正値は5.0で、この値を中心にして許容範囲の測定値は4.0~5.5になります。

測定値が5.5より大きくなると、こだわりが強かったり、しつこい表現の文章となり、4.0より小さくなると意味が曖昧になっている文章となります。

許容範囲より大きく外れていた項目は、下記の3項目でした。改善策を参照してください。この改善策では、日頃の会話の習慣を改善する事でも、文章表現が身に付きやすくなるようにしています。

テーマ設定力

望ましいキーワード群の数を見て、あなたが使った単語の数が多ければ、単語を絞り込みましょう。キーワード数が多いと内容が難しくなり、読者は理解し難くなります。キーワードとして挙がっている単語群の中で大切な語を選択し、書いた文章を読み直してください。よく似た表現を繰り返しているところは削除してください。または類似文があれば一つにまとめましょう。キーワード群を絞り込めば、読者は理解し易くなります。

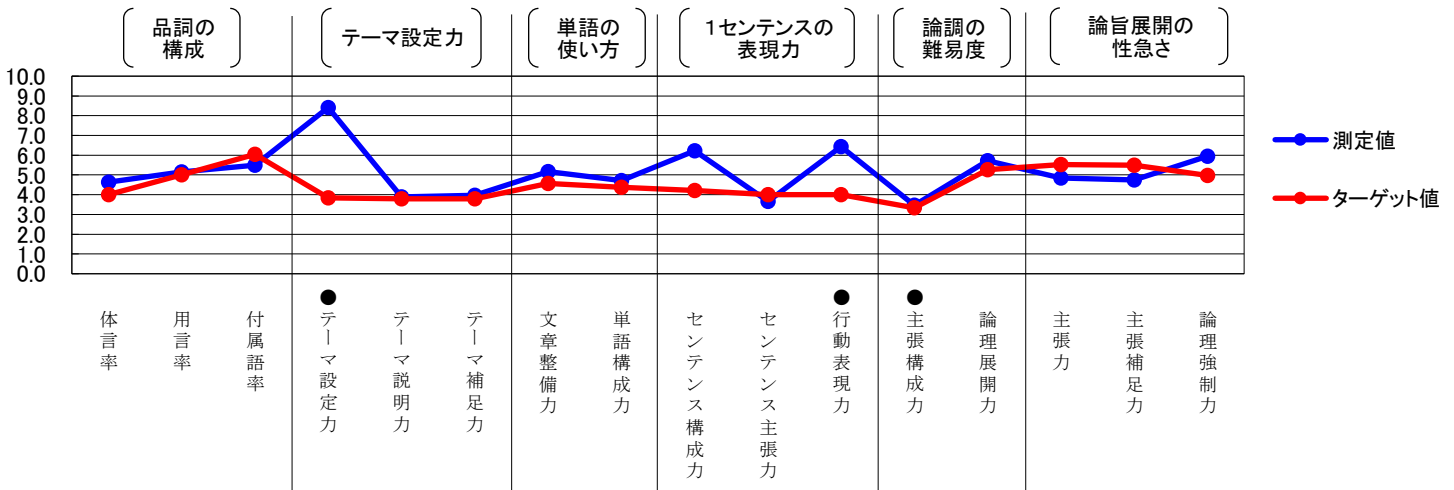
主張構成力

主張する要素(テーマの中心になる単語群)が少ないか、またはありません。読者は、テーマを掴めないでいます。書かれた文章を読み直して、主張の中心になる単語を3つ、4つを決めてください。決められた単語群が適時使われているかを確認しましょう。同じ意味を異なる単語で、逆の単語で否定的に表しているかもしれません。かえって主張がぼやける場合があります。決めた3、4単語を中心にまとめて直しましょう。

行動表現力

思考、方法、目的に対して行動が適切にまとめられて表現されているかを見えています。行動の種類や方向が多くなれば、意味や目的が分散して実行が難しくなります。1つだけに絞込むと読者が考える応用性が乏しくなります。表現するとき、行動の方向、方法を2つ、3つぐらいに絞って書き表すようにしましょう。行動を表す単語を絞り込んで読み直し、修正してください。

縦軸：測定値 横軸：基本測定項目(16項目) ターゲット値：読みやすい、分かりやすい、表現に無理のない文章としての目標測定値です。



基本測定項目	測定値	測定内容
1 体言率	4.6	文章で使われている全体の単語に対しての名詞、副詞の割合を示しています。
2 用言率	5.2	文章で使われている全体の単語に対しての動詞、形容詞の割合を示しています。
3 付属語率	5.5	文章で使われている全体の単語に対しての助詞、助動詞の割合を示しています。
4 テーマ設定力	⇒ 8.4	言いたいことを単語に置き換えたときの単語群を表しています。
5 テーマ説明力	3.9	言いたいことの説明、論証を補強する単語群を示しています。
6 テーマ補足力	4.0	言いたいことの根拠、原因、理由などの具体的な例を示しています。
7 文章整備力	5.2	文章表現の基本で全体の文字量に対しての意味のある単語の割合を示しています。
8 単語構成力	4.7	使われている意味のある単語の重複率を示しています。
9 センテンス構成力	6.2	センテンス全体の文字数の平均を表し、1センテンスで言いたいことの強さを示しています。
10 センテンス主張力	3.7	最も言いたいことを表現した1センテンス(一文)の主張の強さを示しています。
11 行動表現力	⇒ 6.4	1センテンス(一文)で表現されている、行動を表している単語の出現率を示しています。
12 主張構成力	⇒ 3.5	言いたいことを構成している単語量からの主張の複雑さを示しています。
13 論理展開力	5.7	言いたいことを伝達するときの分り易さ、丁寧さを示しています。
14 主張力	4.8	文章の中で、最も中心になっている単語の強さを示しています。
15 主張補足力	4.7	言いたいことの特徴を表している単語の集まりの強さを示しています。
16 論理強制力	5.9	言いたいことを相手に説得しようとする姿勢の強さ、丁寧さを示しています。

▼ センテンスの数は: **23** センテンス ▼ 最も長く書かれたセンテンスの文字数は: **77** 文字
 ▼ 60文字以上で書かれたセンテンス数は: **4** センテンス ※文字数が多い場合は掲載されない個所があります。

長いセンテンス

- 人間のやることには、ある程度の限界があるものだが、それを強靱なまでの意志と、計り知れない努力で打ち破り、常に頂点を求め続け、手に入れてきたのがアイルトンセナであった。 — 文字数(句読点記号を含む)は83文字でした。 —
- やはり、マシンではなく、ドライバーが見せる動き、意地を張ったバトル、危険を冒しながらの追い抜き、宙に浮くようなクラッシュやスピンなどを見たいのである。 — 文字数(句読点記号を含む)は75文字でした。 —
- 誰もが忘れがちで失い易いものを、どんな状態でも持ち続け、最上級の技術を駆使し、十分にを見せてくれたところに世界中の人々は魅了されたのだろう。 — 文字数(句読点記号を含む)は69文字でした。 —

書き方テクニク

文章構成要素	測定数	適正範囲	判定
文字数	1034		
1 使用単語種類数	197	190 ~ 232	○
2 センテンス数	23	25 ~ 33	▼
3 名詞数	140	151 ~ 173	▼
4 動詞数	104	71 ~ 88	▲
5 接続詞数	7	0 ~ 4	▲
6 指示語数	5	0 ~ 4	▲
7 副詞数	12	0 ~ 10	▲
8 癖言葉数	4	0 ~ 5	○
9 長文数	4	0 ~ 4	○
10 キーワード数	6	2 ~ 5	▲
11 語尾統一率	96 %	90%以上	○
12 否定語使用傾向	2 %		
13 漢字使用傾向	26 %		

判定: ▲:測定数が適性範囲より多い
 ▼:測定数が適性範囲より少ない

否定語 打消助動詞”ない”と形容詞”ない・無い”、非、不使用傾向: のつく単語(非常識・不可能)を測定しています。

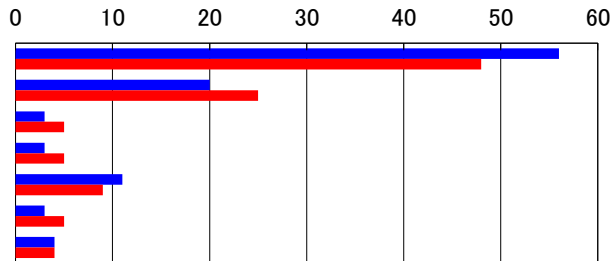
1使用単語数、3名詞数、4動詞数、5接続詞数、6指示語数、7副詞数、8癖言葉数は、使われた回数により適正範囲が設定されます。

文体と語尾のバランス

論文風	7.5	ですます調	0 %
エッセイ風	5.6	である調	96 %
小説風	5.6	体言止め	4 %

品詞の構成

品詞	理想的な構成比	あなたの構成比
名詞	56 %	48 %
動詞	20 %	25 %
形容詞	3 %	5 %
助動詞	3 %	5 %
助詞	11 %	9 %
副詞	3 %	5 %
その他	4 %	4 %



■理想的な構成比
 ■あなたの構成比

※その他は接続詞、連体詞、感動詞です。

文章書き方測定の合計点

55 点

※得点は10点満点です。6点以下の項目は特に注意してください。

- 一文での名詞種類数を過不足のないように書く **0 点** できるだけ漢字で書く **3 点**
- 動詞、形容詞は、名詞に対してバランスよく書く **8 点** 「ですます・である調」は統一して表現する **10 点**
- 副詞などのあいまいな言葉は、できるだけ減らす **4 点** 「こと」「ため」などは、できるだけ使わないで書く **10 点**
- 「そして、また」などの接続詞は、できるだけ減らす **0 点** 一文は、できるだけ40文字以内で書く **6 点**
- 「こそあど」などの指示語は適切に使う **4 点** テーマの中心になる単語を決めてから書く **10 点**

あなたの書いた文章で測定されている内容は

- あなたが文章の中で、言いたい事柄、主張したい事柄(キーワード)が相手に伝わるように書かれているかどうか。
- 「~の事」の「事」、「~の為」の「為」などの言葉が、意味もなく何となく使われ、書く時の癖になっていないかどうか。
- 1センテンス(書き始めから句点「。」)までの一文が長すぎて、意味が読み取り難い文になっていないかどうか。
- 基本となる16項目の測定値が適正值(理想値)よりもかけ離れ、バランスの取れていない文章の構成になっていないかどうか。
- やたらと漢字が多い、もしくは、ひらがなが多い文章になっていないかどうか。接続詞、指示語、副詞などの単語が多く使われている為に、文章全体で意味が読み取り難い構成になっていないかどうか。
- 文法の基本となる名詞や副詞、動詞、形容詞などの構成のバランスが取れているかどうか。特定の品詞に偏っていないかどうか。
- 論文を書いているのに、例えば、どこからか小説風の文体の書き方に変わっていないかどうか。「ですます調」で書き始められた文末が、途中で「である調」、「体言止め」などに変化していないかどうか。

の7つが大きなポイントです

測定項目の説明

■長いセンテンス	文章には短い文も、長い文もあります。1センテンス(一文)が長すぎると意味が読み取り難しくなります。逆に短すぎても、意味が単純になり、気持ちが表れ難しくなります。読み易く、相手に伝わり易い1センテンス(一文)の文字数は40文字が適正となります。
■書き方テクニック	表内の項目は文章を読みやすくするための大切な要素になっています。それぞれの項目が適正範囲になっているほど読みやすくなります。あなたの文章をさらに良くするために参考にして下さい。
■文体と語尾のバランス	文章を書く時、人には表現の癖があります。論文がいつのまにか小説風になる事もあります。目的に応じた文章を書く為に、自分の文体の癖を知っておく事が大切です。文末も統一されている方が読み易く、文意もつかみ易くなります。
■キーセンテンス	読んだ後に印象に残りやすい文が示されています。あなたが書いた文章で、言いたかった、伝えたかった内容が示されているか確認して下さい。文字数が多い場合は掲載されない箇所があります。
■品詞の構成	幼い子供も、大人も、天才も、賢い人も、全くそうでない人も、皆と一緒に、同じテーブルで話し合った事を測定してみると表内の理想的な構成比になってしまいます。この構成比率こそ、意識が通じ合う言語コミュニケーションなのです。
■キーワード群	文章の中で特に言いたい事柄を複数の単語で示したものをキーワード群としています。相手に伝わるような文章にするには、使われた単語の総数の約4%の単語がキーワードとして書かれているのが望ましい文章となります。形容詞と動詞は終止形で、10単語まで掲載されています。[]内の単語は、キーワード群が3単語未満の時に、補足説明単語群から3単語掲載されています。

文章の心電図(測定値グラフ)

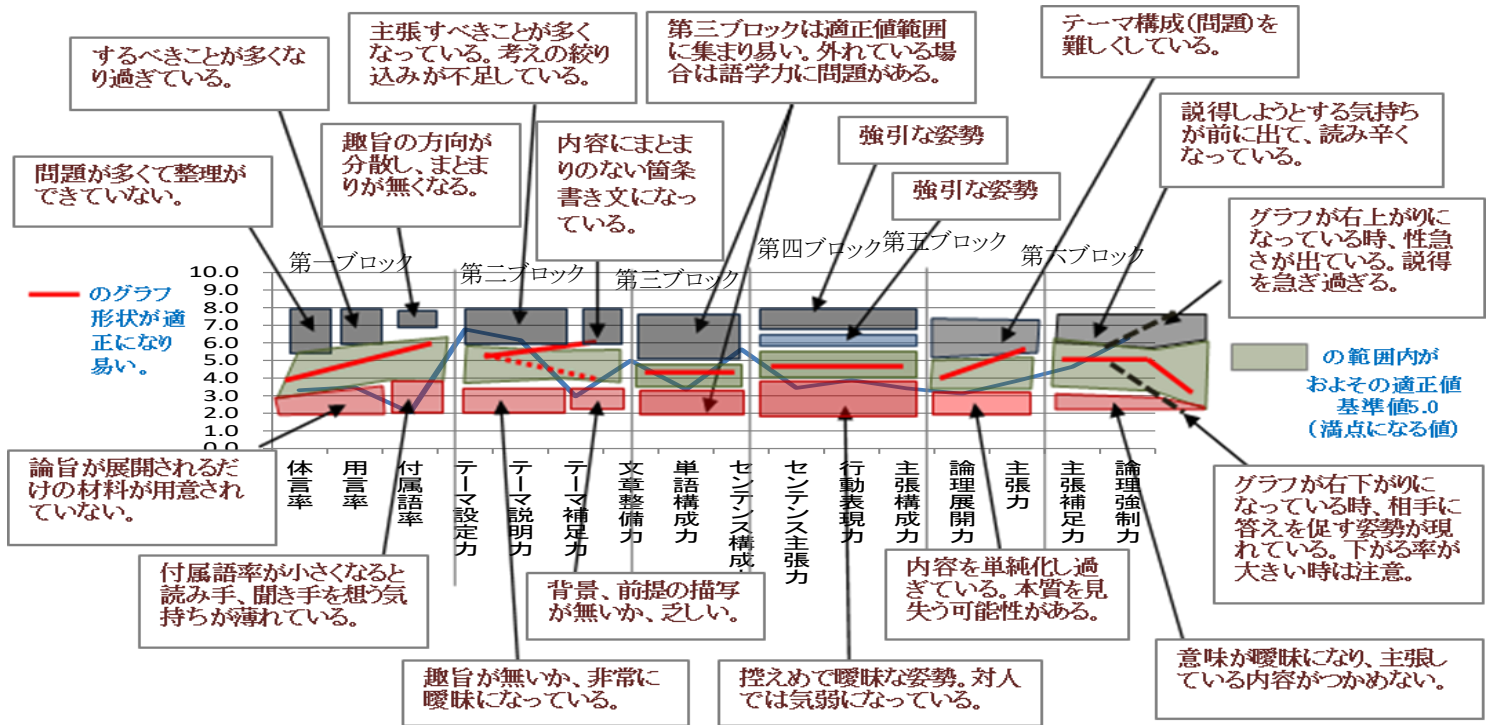
文章分析は言葉を素材にした分析です。文章の作者の表現、思考形態を一つの折れ線グラフで表しています。グラフは16の測定値で表されています。グラフ形状を並べて見ると人材の特徴の違いが良く分かるはずです。

■測定値の意味とブロック別グラフ形状

表現された文章を、16の項目測定値で表し、作者の表現&思考形態を視覚化しています。グラフ形状が人材のテーマに対しての姿勢、特徴を表しています。一人の人材が、いくつもの文章を書いたとしても、類似したグラフ形状になると分かっています。グラフの測定値と形状の意味は、膨大な文章データの分析統計から、人材の特徴とグラフ形状の関係が求められました。

データの取り方、分析値の計算の仕方によって、16の分析値項目が第一～第六の六つのブロックに分類されています。

測定値4.0～6.0の場合は、表現、論旨等が適正にまとめられています。6.0より大きくなると、こだわりが強くなり、他の意見を受け入れにくくなる傾向があります。逆に、4.0より小さくなると、曖昧さが出て、他の意見に影響されやすくなる傾向があります。



■グラフのブロック単位の形状には次の種類がある



六つの各ブロックは3つまたは2つの分析値で構成されています。一つのブロックは、同種のデータを取り、グラフの形で、表現&思考タイプがあるのが分かりました。第一、第二、第四、第六ブロックは分析項目が3種類あり、上図のように

グラフ形状が9種類あります。第三、第五ブロックは2つの分析項目があり、グラフ形状は右上がり型、水平型、右下がり型の3種類があります。グラフ形状の例を挙げておきましょう。第一ブロックは体言率と用言率、付属語率で構成されています。分析値が右上がりになる人は対人性の高い人になり、山型になると、指示をする傾向が強くなっています。第二ブロックが、右下がりであれば、自身だけが納得して、相手も納得しているつもりになっています。右上がり型は、趣旨をつかんでおらず、分かったつもりになっています。第5ブロックの左の分析値が4以下で右上がりになっている場合は、問題を簡単にしてしまう傾向があります。分析値によって状態のレベルは変わりますが、人材を認識するための一つの指針になっています。

ファーストステップの添削ポイント

(本文は測定に不要な記号等は抜き取って掲載しています)

文章から抽出された主張傾向 (長文もしくは多量の場合は掲載されない個所があります)

◆キーセンテンス — 書かれた文章で中心になっていた文章

そして、80年から90年にかけて、最も強い印象を与えたドライバーといえばやはり、アイルトンセナとアランプロストであろう。そして、自分の前を走る人間を見たくない、という気迫と一体化したマシンは、他のドライバーの存在をかすませ、独走し続けた。やはり、マシンではなく、ドライバーが見せる動き、意地を張ったバトル、危険を冒しながらの追い抜き、宙に浮くようなクラッシュやスピンなどを見たいのである。そして、それにずっと応えてくれたのがセナであり、プロストであった。セナとプロストの時代は終わったが、違うドライバーが繰り広げる、違う闘志のぶつかり合いもまた、必ず楽しませてくれるものであろう。

◆文章に現れたキーワード群

アイルトンセナ アランプロスト
ドライバー マシン 見る 見せる

◆癖になっている言葉

事(こと)

の箇所の文は、60字以上で書かれた文章です。長文数は、4/23センテンスでした。40字以内で書くようにしましょう。< >内は接続詞、()は指示語もしくは連体詞です。【 】内は癖言葉です。できるだけ無くすようにしましょう。

の箇所の文は、キーセンテンスです。読んだ後に印象に残りやすい、言いたかった、伝えなかった内容が書かれている文章です。

文字数	— 本文 —
33	世界を舞台に繰り広げられているモータースポーツの中に、F1がある。
42	(これ) は、1950年から始まったとされ、これまでに数々の名ドライバーを誕生させてきた。
60	<そして>、80年から90年にかけて、最も強い印象を与えたドライバーといえばやはり、アイルトンセナとアランプロストであろう。
22	彼らは、熾烈なまでの闘いを見せ続けてくれた。
69	2人の闘志は、世界16カ国あるサーキットのどこでも目にする【こと】ができたが、87年からの日本の鈴鹿では、より異様なまでの執念を見せてくれた。
20	1988年、鈴鹿にて熾烈な闘いが始まる。
29	ポールポジションからのセナがスタート直後に突然のストール。
13	プロストに大きく離される。
55	<ところが>、その後のセナの追い上げは目を疑うほどのすごく、20周目にしてプロストを捕らえ、素早く背後に付いた。
52	(そこ) から時速300キロものスピードで、タイヤギリギリのところまで寄せ、直ぐ様抜き去り、逆転優勝を遂げた。
45	互いのレース、勝利にかける雄姿は他に例を見ず、トップというポジションで激しさだけが増した。
59	<そして>、自分の前を走る人間を見たくない、という気迫と一体化したマシンは、他のドライバーの存在をかすませ、独走し続けた。
83	人間のやる【こと】には、(ある) 程度の限界があるものだが、(それ) を強靱なまでの意志と、計り知れない努力で打ち破り、常に頂点を求め続け、手に入れてきたのがアイルトンセナであった。
60	F1自体が非現実的であるので、たとえ最新型のマシンが速くサーキットを駆けたとしても、(それ) だけでは観衆は熱狂しないだろう。
75	やはり、マシンではなく、ドライバーが見せる動き、意地を張ったバトル、危険を冒しながらの追い抜き、宙に浮くようなクラッシュやスピンなどを見たいのである。
33	<そして>、(それ) にずっと応えてくれたのがセナであり、プロストであった。
50	<しかし>、93年のプロストの引退と同時に、セナも <また> F1から、いや(この) 世からも永久に引退してしまった。
45	生涯かけて得るところを早くに得たゆえの結果なのか、定められた運命が存在しているのだろうか。
63	以前にスポーツをし、勝つ【こと】だけを【考え】、練習に励んでいた者として、セナのひたむきな姿勢と、まっすぐな心には深く感動させられた。
69	誰もが忘れがちで失い易いものを、(どんな) 状態でも持ち続け、最上級の技術を駆使し、十分に見せてくれたところに世界中の人々は魅了されたのだろう。
49	全身全霊で、一瞬の気も許されない中でのドライバーが操るマシン捌きは、とても見応えのあるものである。
63	セナとプロストの時代は終わったが、違うドライバーが繰り広げる、違う闘志のぶつかり合いも <また>、必ず楽しませてくれるものであろう。
21	生で見る価値のあるスポーツだと信じている。